

は じ め に

かながわ女性センターが1982年（昭和57年）に江の島の地に開設されて以来、32年の月日が流れました。そしてこのたび、2015年（平成27年）4月に、県の藤沢合同庁舎に移転する運びとなりました。

この32年間、時代とともにセンターの名称も役割も変化した、今日に至っています。開設当初は、全国に先駆けて女性の自立と社会参加を促進するための「婦人総合センター」としてスタートしました。その後、男女雇用機会均等法の成立等を経て、施設名称も「かながわ女性センター」へ、設置目的も男女共同参画社会の実現に寄与するための施設へと変更いたしました。そうした中で、各種講座等における講師や団体の皆様、市町村や国など多くの方々の御協力に支えられて、センターはその役割を果たしてまいりました。

しかしながら、今日においても女性を取り巻く社会問題が全て解決されたわけではなく、誰もが個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を実現するためには、まだまだ多くの課題が残されています。

そこで、移転にあたり、今後のセンターのあり方、歩むべき道筋について、これまでの“32年間”でセンターに関わってくださった多くの方々の中から特にゆかりの深い32名の方に提言をいただくこととしました。その際、これまでの32年間を、概ね10年毎の「婦人総合センター時代」「女性センター事業拡大期」「女性センター事業純化期」に分け、各期毎に10名程度の皆様に御登壇いただきました。32名の皆様には、お忙しい中、インタビューや座談会、寄稿執筆にひとかたならぬ御協力をいただき、あらためて感謝申し上げます。

今後、これらの貴重な提言をしっかりと受け止め、真の男女共同参画社会の実現に向けて、センターの第2ステージ“新たな一歩”を踏み出していきたいと考えています。

引き続き、新しいセンターへの御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

かながわ女性センター館長 西井 たまえ

— 目 次 —

○ はじめに

<第一部>

- I 巻頭インタビュー「かながわ女性センターの建設とその功績」 1
元神奈川県副知事 室谷 千英
- II 座談会「新しい男女共同参画社会を拓く」 8
ノンフィクション作家 沖藤 典子
東京学芸大学名誉教授 久場 嬉子
元館長 関川 昌子
立教大学教授 萩原 なつ子
中央大学教授 広岡 守穂
- III 寄稿（26名 別記のとおり） 21

<第二部>

- 提言 59

<第三部>

- 資料編
- ・ かながわ女性センターのあゆみ 71
 - ・ 婦人総合センター開館記念事業一覧 74
 - ・ かながわ女性センター2014（平成26）年度事業 76
 - ・ 調査研究事業のあゆみ 81
 - ・ 相談事業のあゆみ 83
 - ・ 図書館 蔵書一覧 84
 - ・ 山川菊栄文庫について 85
 - ・ 「かながわ男女共同参画推進プラン（第3次）」 87
 - ・ 「かながわDV防止・被害者支援プラン」 87
 - ・ 「夜明けの航跡—かながわ近代の女たち」 88
 - ・ 「共生への航路—かながわの女たち'45～'90」 89
 - ・ 「かながわ女性ジャーナル 創刊号」 90
 - ・ 「かながわ女性会議会報 第一号」 91
 - ・ 「ふれあいマンガ 思いやりいっぱい」 92
 - ・ 写真に見る32年のあゆみ 93

（敬称略）